

### 第3回総合振興計画審議会【概要】

#### ◇開催日時及び場所

日時：平成28年10月24日 午後6時～午後8時

場所：湯沢市役所2階 25・26会議室

#### ◇出席者（敬称略）

（出席）

高嶋 伸夫（ゆざわ小町商工会）、住谷 達（湯沢青年会議所）、佐藤 政弘（湯沢市雄勝郡医師会）、中山 孝子（湯沢市社会福祉協議会）、前田 貞一（湯沢市体育協会）、柴田 武彦（湯沢地区自治協議会）、戸部 緑（雄勝野づくり連絡協議会）、佐藤 久代（皆瀬地域自治組織地域づくり委員会）、寺門 敏子（NPO 拠点センター ビーイング）、築瀬 栄美子（（合）トマトクリエイション）

（欠席）

松田 悦子（湯沢商工会議所）、井上 善蔵（こまち農業協同組合）、伊藤 明美（湯沢市観光物産協会）、高山 重雄（湯沢7地区自治連絡協議会）、遠藤 幸作（稲川地域自治連絡協議会）、竹下 有紀子（クラウドワーカー）

（市）

市長、副市長、総務部長、市民生活部長、福祉保健部長、産業振興部長、建設部長、上下水道部長、会計管理者、教育部長、企画課

#### 1. 開会

#### 2. 諮問 〈公共施設等総合管理計画〉

市長あいさつ

本日は、ご多用のところ審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

委員の皆様には、現在、「総合振興計画」のご審議をいただいているところですが、さきほど諮問させていただいた「公共施設等総合管理計画」については、本市が所有・管理する公共施設等に関して、総合的な観点から今後の方向性を示す計画であり、まちづくりの在り方と一体的にご協議いただきたいと考えております。

この計画案を、より効果の高いものとするためには、各分野でご活躍されている皆様を始め、広く市民の目線に立った計画にすることが重要でありますので、委員の皆様から忌憚のないご意見やご感想を頂戴したいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

### 3. 会長あいさつ

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

今日は、諮問されました公共施設等総合管理計画案の説明、基本構想案の審議と進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

### 4. 説明事項

公共施設等総合管理計画（案）について、資料に基づき説明を行いました。

…「第1 公共施設等総合管理計画について」から「第3 公共施設等の更新費用の推計」まで説明。（P1～14）

「第4 公共建築物に関する基本方針」以降については次回説明。

〈主な内容は次のとおり〉

委員	施設の利用率はどうなっているのか。
市	施設は数多くあるため個々の施設によって利用率は異なるが、建築当時よりも全体の人口が減っているため、総じて利用者数も減少傾向にあると言える。
委員	人口が減少することは明白なので、公共施設の量を減らしていくことは、当たり前のことである。
委員	岩手県予防医学協会が運営する「幼老統合施設 Cocoa」という施設がある。この施設は、子供（保育所・児童クラブ）と高齢者（デイサービス）が1つの施設に入っており、世代間交流によって相互に良い影響を与えている。 このような先進事例もあるので、当市においても「施設の複合化」には賛成である。
委員	私もそう思う。子供と高齢者が一緒に施設に入ることで、高齢者にとっても元気がもらえると思う。
委員	私も複合的な施設はいいと思う。 ただし、子供と高齢者の一体施設の場合、都会では高齢者が子供の声を「うるさい」と感じるようである。将来的に都会から移住者が増えてきたら、そういう問題が起きないか心配な面はある。
委員	公共施設全般に言えることだが、現在でも管理や運営体制について、工夫できることはたくさんあるはずである。
市	そのとおりである。公共施設の課題は決して明るい話ではないが、課題があるとわかっているのに、このまま放置しておくことはできない。 スクラップするものは、きっちりとスクラップする覚悟が重要である。

## 5. 審議

総合振興計画基本構想（案）と施策体系図（案）について説明を行い、意見を求めました。

（主な内容は以下のとおり）

委員	DID（人口集中地区）は、湯沢にも該当するところがあるのか。
市	H22の国勢調査で2.87平方キロが該当している。
委員	中心となる人材育成と地域組織の充実を図る等、自治協議会を重要視されているのは分かるが、その反面、協働の主体としての位置づけがあいまいなのではないか。 文章としては問題ないが、実態としてはもっとはっきりさせた方が良い。市での位置づけを規定しているものがなく、重要視しているとしながらも単なる任意団体なので、実態も考慮していただきたい。
市	市民自治の推進については、役割分担などについて整理の必要があると考えている。国の方でも法人格を与えてはどうかという議論もあるので、位置づけの明確化について取り込んでいけたらと考えている。
会長	人口が減っていく中で、地域を盛り上げていこうとするためには、地域の自治組織がどれだけ活動できるかが重要。各組織がどれだけ役所と連携してやっていけるか、役所の方でもどうやったら自治組織を上手く動かすことができるか考えてもらいたい。
委員	例えば下水道の整備とか、当初計画とは大分違ってきていることが多くあると思うが、見直しなどはされているのか。
市	下水道に関しては昨年見直しをしている。見直しにあたっては、議会に報告しながら行っている。
委員	インバウンドを考えた場合、小安から稲川ラインは見るところ、食、特産品がまとまっていて、外国の方向けのメニューとして対応できるのではないかと。 長寿、健康、スポーツについて、医療や介護保険の改善という意味からも、高齢人口が健康に過ごせるためのスポーツとしてパークゴルフ場などを大々的に整備してもよい。公共施設を縮小する方向ではあるが、スポーツの振興にもなるし、客を呼べる施設であれば市も儲かる。
委員	前資料にあった移住定住の推進に関する内容は、新しい案ではどこになるか。
市	移住促進については、施策体系の1-1-3で外からの応援の力、はじめは外からでも、次の段階で移住として来ていただくとまとめている。

- 委員 若者が起業しやすい、金融機関が融資しやすいことも必要。移住を考えた場合には全国色々な所を考えるとと思うので、優先できるような施策があればいい。
- 湯沢には少ないと思うがLGBTとか性的少数派の人などを受け入れる土壌があってもいい。我々にはない感覚を持っている人を生かせるような社会であれば、湯沢ももっと面白くなるし、移民なども選択肢の一つと思う。
- 外から来た人に寛容な社会だと打ち出せる施策があってもいいと思う。
- 会長 地域にはそういった土壌があると思うし、いろいろできるのではないかな。
- 委員 コンパクト化を進めるにしろ、観光資源は多いので集客と活性化を図り、集落が無くならないようにできればよい。
- 支え合うということは互いに役割を担っていくこと。そういった機能は働いていると思うが、今以上に人口、財源が減りコンパクト化が進む中でも、暗くならないような暮らし方をしていきたい。
- 委員 地域でお年寄りと園児の交流会など行っているが、孫のいないお年寄りも楽しそうにしている。そういった繋がりが続き広がることによって、子どもたちにも懐かしい思い出として残るのではないかな。
- 委員 年と共に今の暮らしを楽しもうという気持ちになってきたが、若い人には華やかさがなくて定住に繋がらない。親の世代が楽しく暮らせる場所であることを見せられればいいが。
- 多機能型の特養を建てる際に中へ児童館を作ったが、入所者に大変喜ばれ、心の高揚につながっている。
- 委員 子どもたちに地元のことをもう少し教えなければいけない。休みに親が連れて行けばいいのだろうが、余裕もないかもしれない。教育の場で地元がいいものがあるということを教えた方がいい。
- 医療費のことでいえば、一番不摂生なのが40～50代ではないか。その年代に健康について考えてもらうことが将来的な医療費問題へ関係する。
- 委員 30～40代で体をほとんど動かさないという人は多い。総合型スポーツクラブとか、トレーニングルームがあって体を動かせる場所が必要ではないか。総合体育館は利用しづらい。若い人が体を動かせる場所が少なく不便を感じる。
- 委員 高齢者と幼児と一緒に過ごすという話があったが、都会で子どもの声が迷惑だというニュースがあっただけでがっかりしている。高齢の移住者を迎える場合、そういった施設があっても入ってくれるのか非常に心配になった。
- 高齢者にもスポーツをやらせたいが、交通機関がなくて行けないとか、乗合タクシーの予約が大変という話も聞く。健康維持するためにも、皆で来るようにできればいいと思う。
- 大人でも湯沢の良さを知らない人は多い。子どもだけでなく大人にも知ってもらうことで、いい所に住んでいるという自信を持って呼び込めるようになる。

委員 町内会や自治組織が基本の力であると思う。こういった枠組みだとか守られている組織かではなく、役に立っているという誇りを持ってやること。

会長 色々な意見をいただきましたが、これから進めていくためのヒントが示されていたと思います。

本日は、これもちまして会議を終了させていただきます。